

# さぬき・東かがわ市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 学びを実生活に生かせる国語科学習のあり方  
～単元を貫く言語活動の工夫～

## 2 研究活動の概要

- (1) 5月1日(木) 研究主題設定, 研究組織作り, 研究計画立案
- (2) 6月12日(木) 研究授業 東かがわ市立大内小学校  
3年 物語のあらすじをとらえよう  
「ゆうすげ村の小さな旅館」  
指導者 東部教育事務所主任指導主事
- (3) 7月25日(金) 夏季研修会 さぬき市立津田小学校  
平成26年度香小研夏季研修会提案資料検討  
平成26年度香小研研究発表大会提案資料検討  
ベテラン教員による講話
- (4) 11月6日(木) 研究授業 さぬき市立さぬき北小学校  
3年 はたらく犬について調べよう  
「もうどう犬の訓練」  
指導者 東かがわ市教育委員会学校教育課主任指導主事
- (5) 1月20日(火) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

## 3 研究内容

- 6月の授業では、場面の移り変わりに気をつけてあらすじをまとめることをねらった単元の展開が提案された。「いつ」、「どこ」、「だれ」に注目することであらすじを構成するために必要な事項を「あらすじの技」としてまとめさせ、言語技術としての積み上げがなされていた。討議では、あらすじに書き表すまでの手立ての工夫として黒板の利用について意見が多く出た。本文をあらすじにするためにどう短くしていくのか、その思考のあとを板書に残す工夫について話し合われた。また、実生活に生かすことが必要であり、子ども一人一人がやってみたいと思わせるように教師が仕組むことの重要性について御指導いただいた。
- 11月の授業は、1, 2年生に読んでもらえるような「はたらく犬 もの知り辞典」を、図書室に設置するという言語活動を設定した単元構成であった。紹介したい犬についての紹介文をただ要約するのではなく、Q&Aのページを要約して、分かりやすく説明するという児童にとっての必要感を高める工夫がなされた実践であった。討議では、Q&Aの形式を用いたことに対する提案性と、今後の改善について話し合われた。また、御指導の中で、目的に応じて表現活動を設定できている、「読むこと」と「書くこと」を関連させたことで読む態度を育てようとしていることについて評価していただいた。また、新聞のスクラップを活用した要約の手立てについても詳しく御指導いただいた。

## 小豆郡 研究のあゆみ

1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

### 2 研究活動の概要

(1) 4月25日(金) 瀏崎小学校 研究組織づくり, 研究計画の立案

(2) 6月17日(火) 土庄小学校

グループ協議 「身近な事物を簡単に説明する文章を書くこと」における

つまずきへの具体的指導について

指導者 香川県教育センター主任指導主事

(3) 11月20日(木) 瀏崎小学校

授業研究 2年

「じゅんじょをかんがえてはつ明ひんをせつ明しよう

～二年一組はつ明じむしょ～」

指導者 香川県教育センター主任指導主事

### 3 研究内容

(1) 1回目の研修について

1回目の研修では、2回目の研修で行う研究授業の単元で予想される児童のつまずき(構成, 記述の2点から)を研究部が提案し、グループに分かれ具体的指導について話し合った。「発明メモを作る」「メモを元に紹介文を書く」という各段階で予想されるつまずきについて、グループ協議の中で、効果的な支援を考えることができた。さらに課題も明確になり、次回の授業への提案性が高まった。

指導者のご指導により、単元のねらいや身に付けさせたい力、具体的指導方法などが明確になるとともに、実践のアイデアなどもいただき、大変有効な研修となった。

(2) 2回目の研修について

2回目の研修は、『二年一組はつ明じむしょ』(東京書籍2年下)の研究授業であった。授業は、1回目の研修をふまえて、本時に身に付けさせたい力(紹介のための順序)を明確にした実践であった。部員も、教材や課題について共通理解した上でのぞむことができた。それでも、実践してみると単元構成のさらなる工夫やいろいろな指導方法が見つかり、教材研究の深さを認識するとともに、付けたい力を明確にすることが子どもの主体的学びにつながると再確認できた研修であった。

指導者からは、学力の3つの要素、単元を貫く言語活動の位置付け、授業づくりのステップ、思考や判断、表現を促す手立ての具体化、教科書の手引きの扱い方など、すぐに実践できることも含めてご指導をいただいた。

(3) 成果と課題について

- ・ 昨年に引き続き、共同教材研究とその研究授業ということで、充実した研修となった。
- ・ 2回とも、県教育センター主任指導主事に分かりやすく具体的なご指導をいただき、また、質問にも丁寧に返答していただいたということで、充実した研修であった。
- ・ 経験豊かな教師が、若い教師に教材研究の仕方や授業実践について伝えていくことが大切である。また、国語部会で得られた成果を各学校で共通理解できる方策を探っていく必要がある。
- ・ 来年度は新しい教科書になるため、学年の系統性や内容についての研修も検討したい。

# 高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造  
～単元を貫く言語活動を位置づけた授業づくり～

## 2 研究活動の概要

(1) 6月12日(木)〈第1回研究授業・討議〉

**北ブロック** 2年 なかよしのお話を紹介しよう  
「お手紙」

**南ブロック** 6年 物語が強く語りかけてきたことを考えながら読もう  
「ばらの谷」

3年 ファンタジーを楽しもう  
「ゆうすげ村の小さな旅館」

(2) 10月30日(木)〈第2回研究授業・討議〉

**北ブロック** 4年 「ごん日記」を作って、兵十にごんの思いを伝えよう！  
「ごんぎつね」

**南ブロック** 5年 宮沢賢治の作品の魅力を「賢治ワールドへの扉」<sup>ドア</sup>で紹介し合おう  
「注文の多い料理店」

4年 くらべる点を決めて読み、「なるほど！くらしの中の和と洋ブック」を作ろう  
「くらしの中の和と洋」

## 3 研究内容〈各ブロックの研究授業より〉

### 北ブロック

#### 第1回

##### (1) 単元の工夫

- ① 1年生に「お手紙」をペープサートで紹介するという相手意識をはっきりもたせた言語活動の設定は、「何をするのか、何のためにするのか」を明確にしている意欲のつながりが見られた。
- ② 単元を通して登場人物の気持ちを視覚的に捉える表現物があり、次の読み取りの手立てとしてとても効果があった。(青とピンクのハート型や主人公の表情が分かる掲示物など手作りの教具) この工夫を生かしてそれぞれの場面を読み取るだけでなく、かえるくんの変化・葛藤、がまくんの気持ちの変化を読み取れるように、「点」でなく「線」で結ぶ授業計画を行える。
- ③ ペープサートは、

意欲を引き出せる	会話を付け加えられる	目線・表情や距離感がつかめる
登場人物に同化できる	場面把握ができる	

という良さがある。児童もとても楽しそうに活動できていた。更に、1年生でも分か

るペープサートの動かし方が課題として残った。また、音読とペープサートの両立は2年生として難しかった。場面によりペープサートが生きる場合、そうでない場合もあることが分かってきた。

(2) **1 単位時間の工夫**

- ① ユニバーサルデザインの視点に立った授業作りがあった。
  - ・ 黒板とは別にホワイトボードに活動の手順が明示されていた。
  - ・ 読み取ったことを色分けした付箋で視覚的にとらえられるようにしていた。言葉の付け足し（黄緑色）、動かす工夫（水色）、音読の工夫（ピンク色）
- ② ペア活動が活発に行われていたが、互いに何を評価するか、視点を決めるべきだった。視点を絞ることでつきたい力に近づける。
- ③ 本場面は、「本当の友達とは何か？」を考えることのできる授業だった。「動」の喜びでなく、「しみじみ」とした喜びで、それを味わうことを大切にしてほしい。
- ④ 本場面を読んだ後、1の場面を振り返って読むことで気付くことがあるので、つなぐ読みも大切にしたい教材である。

## 第2回

(1) **単元の工夫**

- ① 言語活動として「ごん日記」は、実態に合っていて、目的意識をもって書けており、意欲が高まっていた。
- ② 本時までの流れの揭示やユニバーサルデザインを意識した細やかな支援が良かった。
- ③ 子どものつぶやきや、言葉をつないだり、つぐないに対するごんの行動の変化の理由まで問いかけたりすることで、学びが深まり、主体的な学びが達成されるだろう。

(2) **1 単位時間の工夫**

- ① 学習規律が整っており、共感的な雰囲気が非常に良かった。
- ② 読み取りを色分けしたカードに書いていくのは、視覚的に捉えられるので良かった。（登場人物の言葉は赤のカード、登場人物の行動は青カード、地の文は緑のカード、読み取った気持ちは白のカード）発表の児童のカードのみ黒板に貼ったので、他の児童のカードも生かす手立てが欲しかった。
- ③ 2つのつぐないを比較思考したことで、ごんの気持ちの変化に迫っていた。更に、比較した表と児童の白のカードをつなげて考える時間があると、より読みの深まりを共通理解できただろう。
- ④ 「ごんぎつね」の教材の良さは、自分のことよりも誰かのために行動をするところである。その良さに浸らせることを大切にしたい。
- ⑤ ノートを見せ合ったり、自分の考えを友達に話したりする時間を十分に確保することで、子どもの主体性が生まれるし、交流の仕方が定着する。

## 南ブロック

### 第1回

< 6年の実践 >

(1) **学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想**

- ① 児童が対比ととらえた言葉を板書をしながらみんなで練り上げていく中で、「人間」と「自然」などの主題に近づくことができていた。
- ② 話し合いの中で意見の吟味をするためにも、意見を正しい視点で比較できる力を付けなければならない。
- ③ ユニバーサルデザインの授業を目ざすためにも、書き方や学び方をはっきりと示すことで意見の表し方が分かり、児童が学習に意欲的に取り組める。また、個別の支援や意見を持ち寄っての話し合い、友達同士での学び合い等が大切になってくる。
- ④ 子どもの実態に合わせた活動を取り入れた楽しい授業を実践してほしい。その際、国語学習の基礎基本の力を付けるというねらいを忘れないで取り組むことが大切である。

(2) 1 単位時間の授業における指導過程の工夫

- ① 「考えを持つ→ノートに書く→黒板に書く→比べる・考える」というパターン化ができ、授業が進められていた。児童が集中して取り組み、ひとりひとりに活躍の場があった。
- ② 対比や主題を考える際に、文章を書く型が示されていて分かりやすかったが、全体交流で、どこからそう考えたかという根拠を話し合えるとよかったのではないか。
- ③ 物語の中の大切な言葉や教師が考えるこの物語の主題が指導案に表れると、児童の活動のゴールが見えてくる。他校の児童が考えた主題を紹介したことは、新しい取り組みだった。

< 3 年の実践 >

(1) 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想

- ① 学習の手順が掲示されていて分かりやすかった。
- ② 同じシリーズのいろいろな話を読んで、人物像をとらえるという方法は、児童の実態に合っており意欲的に取り組んでいた。
- ③ 課題設定で「お話のおもしろいところを紹介しよう」や「好きなところを紹介しよう」といった方が、取り組みやすいのではないか。
- ④ 言語活動には、ブックトーク、新聞づくり、音読発表などあるが、言語活動の本質をとらえて指導してほしい。関心・意欲が継続する言語活動でなければならない。

(2) 1 単位時間の授業における指導過程の工夫

- ① 叙述に戻ることで、本時出てきたいろいろな性格についての言葉を分類していくと、仕掛けが見つかるのではないか。
- ② 教科書から分かったつぼみさんの性格のカードを板書に活用し、さらに見つかった性格を周りに増やしていくと、視覚的にもよく分かるし、人物像も深く捉えられる。
- ③ ファンタジーの中の不思議な出来事を整理していき、物語の中の仕掛けだということに気付くことが大切である。
- ④ あらすじについては、場面ごとに「時」、「場」、「人物」をおさえ、それぞれどんな出来事があったのかをまとめていく。それを追いかけることで展開が分かり、あらすじになる。

**第2回**

#### < 5年の実践 >

##### (1) 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想

- ① A（教科書教材）、B（自分で選んだ作品）交互に行う「AB ワンセット方式」を取り入れ、物語を確実に読み取る能力の育成を図っていた。
- ② リーフレットは一つ一つのパーツができあがるごとに完成に近づいていくのが目に見えるので、達成感が得られていた。
- ③ 学習計画も見える化していたので、子どもが見通しを持ち、学習に臨んでいた。
- ④ 学んだことを活用する力をつけるためには、前時Aで書いたパーツや書き方の資料、ノートなどを振り返らせてもよかった。
- ⑤ リーフレットの形式が工夫され、扉を開けたら「リーフレットを完成させたい、紹介したい」という必要感や意欲が見られた。

##### (2) 1 単位時間の授業における指導過程の工夫

- ① TTの指導のバランス、語彙表や文章の型の表の掲示等、細かい支援が行われていた。
- ② 交流カードは他者評価の視点がはっきりしていてよかったが、それを活用した双方向での対話をもっと活発であれば、アドバイスが作品に生かされたのではないか。
- ③ 本時のように「教科書で教える」形は、教科書から日常の読書への読みの力をつなげるためにも、とてもすばらしい方法である。
- ④ 掲示されていた語彙表は、作品を評価したり、読んだ後の気持ちを「おすすめの文」に書いたりする時に有効な手立てだと思う。

#### < 4年の実践 >

##### (1) 学習の目的と単元の見通しを明確にした単元構想

- ① 総合的な学習で、和と洋について関連して取り上げたり、教師が「和と洋ブック」を作ったりして子どもたちへの興味付けをはかった。また、第一次から総合的な学習と並行学習していったため、子どもたちの意欲が途切れることなく学習できた。
- ② 自分の「和と洋ブック」をつくる時にも表を作成し、文章化していった。
- ③ 総合的な学習でも学習していたので、子どもたちが親しみをもって学習できていた。学年団3クラスで「和と洋ブック」を読み合うという単元構想が、児童の意欲をかき立てる手立ての一つになっていた。また、学級間でアドバイスし合うこともできた。
- ④ 教材文を元に、ワークシートに自分の考えた文章を入れ込む形での学習は大変だが、単元を通して行ったことで、子どもたちが見通しを持って学習できていた。難しさを実感することで、筆者の苦労を追体験することができた。
- ⑤ どこで自分の良さを出すのか意識させ、言葉や構成を押さえることで、もう一段階進んだ学習になる。

##### (2) 1 単位時間の授業における指導過程の工夫

- ① 前時から同じ流れで学習過程を組んでいたため、子どもたちは学習することや作業が明確であったので、見通しをもち、コツをつかんで自分で学習に取り組んでいた。
- ② 「教科書→教師の見本文→子どもの活動」という流れが自然であり、無理なく学習できていた。
- ③ ファイルにこれまでの学習の積み重ねがあったり、前時までの掲示があったりしたので、子どもたちの学習の助けになっていた。

④ 「比べる」学習は、2～6年生で同じ時期に学習するが、2・3年生の「同じところと違うところ」はいつも必要になる力であるので、学年間の系統性をよく理解した上で、授業を進めることが大切である。

⑤ 学習指導要領の「読むこと」の領域で、「効果的な読み方をする」というのは高学年で示されているが、低・中学年でも必要な事柄を随時取り入れる工夫が必要である。

#### 4 夏季研修会より

(1) **研修** 『『さぬきの授業 基礎・基本』を活用した指導技術の工夫と改善』の実践報告から

○「発問・助言」「発言の取り上げ方」

第1学年「はたらくのりものをしらべて のりものずかんをつくり、  
ともだちにしようかいしよう」

本単元の実践では

- ・タイミングよく、子どもの思考を方向付けるような助言
- ・学習を深めるよい助言の在り方

を柱として取り組んだ中で、第二次の授業1時間（本時）を取り上げた具体的実践の報告があった。

○「グループ学習」

第6学年「資料を活用して書こう」

初めに、単元における「グループ学習のねらい」「グループ学習によって効果が上がる学習場面」「グループ編成、技能選択」「学習活動過程とグループ学習の効果を高める手立て」について、具体的な実践事例をあげての報告があった。その後、実際に参加者それぞれが実践事例に則った演習を行い、小グループで情報交換をした。

(2) **講演** 香川大学教育学部教授 佐藤明宏先生 「国語学習の充実をはかる」

- 内容**
- ・求められている学力観
  - ・新教科書の変更点
  - ・OECDの「キー・コンピテンシー」
  - ・学力論以前の学習規律
  - ・授業技術論（発問、板書 等）
  - ・単元を貫く言語活動
  - ・家庭学習のあり方
  - ・授業ウォッチングについて

国語の授業を展開する上で大切にしたいことについて、具体例を挙げながら、わかりやすく講義をいただいた。若年層の先生方が増加している現在、授業力の向上につながる話は、2学期からの実践に早速生かせるので、大変良かった。

## 坂出市・綾歌郡 研究のあゆみ

- 1 研究主題** 実生活で生きてはたらく力を育てる国語科の学習  
～単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開～

国語科の授業が実生活で生きてはたらく力を育てるものとなるためには、単元を貫く言語活動を位置付け、その言語活動を行うために必要な能力を育成することが大切である。そこでは、児童に必要感や目的意識をもたせたいうえで、必要な能力の育成を図っていくことが鍵となると考える。

### 2 研究活動の概要

- (1) 4月16日 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画立案  
(2) 6月11日 研究授業①（綾川 陶小学校）  
2年「できるようになったよ」  
(3) 10月23日 研究授業②（坂出 瀬居小学校）  
3・4年「みんなで話し合っ」

### 3 研究内容

- (1) 研究授業①より

本単元の言語活動は、生活の中で経験した出来事を伝え合い、感想を述べ合うことである。相手意識をもち、事柄の順序に気を付けて書いた後、友だちと交流して読み合い、よさを伝え合うことで児童が表現することに自信をもつことをねらった。本時は、交流の場面であった。まず、教材文から学んだ相手に分かりやすく伝える工夫である「はじめ」「中」「おわり」の文章構成や、順序や気持ち、様子を表す言葉、会話文等を振り返り、それらが文章を読み合い、よさを見つけるための視点になることを再確認した。書いてよかったという喜びを味わい、伝えることへの意欲を高めることができた。

- (2) 研究授業②より

本単元の言語活動は、話し合いである。その際、4年生は話し合いの進め方と司会の役割を理解し運営する能力を、3年生は自分の考えと理由を分かりやすく話す能力を育てることをねらった。複式学級(3・4年)での授業公開は、とても提案性のあるものであった。目標が2学年まとめて示されているという国語科の特性を生かしながら、それぞれの学年で身に付けさせたい力とともに、4年生には前学年で学んだ力の活用を、3年生には次の学年で学ぶ力を意識させる取り組みとなった。「話す・聞く」学習において、話し言葉はすぐに消えてしまうため、振り返ることが難しい。そのため、児童自身が自分の課題や学びの成果を捉えにくい。しかし本時は、話し合いの様子をビデオに撮り、振り返りで活用することによって、よりよい話し合いに高めることができた。

- (3) まとめと今後の課題

どちらの授業も、単元導入時から終末の言語活動の設定がされ、友だちと交流する楽しみを分かち合いながら、言葉で伝えることへの意欲を高めるものであった。今後も、児童の実生活で生きてはたらく力を育てることができるよう、必要感をもって取り組める言語活動を研究し合う部会でありたい。



# 丸亀市 研究のあゆみ

1 研究主題 生きてはたらく力を育てる言語活動の工夫

## 2 研究活動の概要

- (1) 4月16日 岡田小学校 研究組織作り, 研究主題の設定, 年間計画作成
- (2) 6月4日 城辰小学校 アナウンサーによる音読の実技指導
- (3) 7月25日 岡田小学校 学習指導研修会  
アナウンサーによる講演, 音読の実技指導
- (4) 12月3日 〈研究授業・討議〉
  - 低学年部会 3年 「世界の民話を読もう」  
—木かげにごろり—
  - 高学年部会 4年 「われら たつの子新聞社」  
—みんなで新聞を作ろう—

## 3 研究内容

- ・ 6月4日のアナウンサーによる音読の実技指導では, HSK 放送制作株式会社小坂哲明先生を講師に迎え, 発声練習の仕方や教科書教材を範読する時のコツを学んだ。
- ・ 7月25日の学習指導研修会では, HSK 放送制作会社小坂哲明先生を講師に迎え, 講演をしていただいた。また, 6月4日に学んだことを生かしながら, 国語部員が講師となり, アクセントの基本や物語文における地の文, 会話文の読み方の違い等, 範読するときのコツを丸亀市内の先生方に紹介した。
- ・ 12月3日の3年「世界の民話を読もう」では, 教材文と各自が選んだ世界の民話を読み比べ, そのおもしろさをクラスの友だちに紹介することを通して, 民話を読み広げていく力を育てる学習が提案された。討議では, 入れ子型の授業の進め方や児童の感想と取り上げ方, 図書館指導員との協力の仕方等について話し合った。
- ・ 4年「われら たつの子新聞社」では, 伝えたい内容を新聞形式でまとめ, それらを他校の4年生に届けるという活動を通して, 分かりやすくまとめて書く力を育てる学習が提案された。討議では, 見出しのとらえ方や見出しの活用の仕方, グループ活動の目的や取り入れ方について話し合った。

# 仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

## 1 研究主題 単元を貫く言語活動を充実させる学習の展開

## 2 研究活動の概要

- (1) 4月23日 研究組織作り，研究主題の設定，計画立案
- (2) 6月10日 第1回研究授業 6年「筆者の意図をとらえ，自分の考えをもとう」  
～生き物はつながりの中に～ (光村)
- (3) 7月25日 句会をひらこう  
2学期教材（説明文）の教材研究
- (4) 11月20日 第2回研究授業 4年「説明を工夫して仕事リーフレットを作ろう」  
～アップとルーズで伝える，仕事リーフレットを作ろう～ (光村)

## 3 研究内容

- (1) 第1回研究授業では、「さぬきの授業 基礎・基本 実践事例」の中から、「発問・助言」「発言（考え）の取り上げ方」に焦点をあてた実践が提案された。言語活動＝筆者の意図をとらえ，自分の考えを書くという主張のもと，第一次では，短編の文章「感情」で本単元の学び方を知り，第二次では筆者の問いに対する答えを見つけることで要旨をとらえさせた。読み取ったことを文字や図などの表現物「対話シート」にまとめる活動を設定して本論を読み，第三次では，筆者の書きぶりのよさや意図について自分の考えを書く活動を行った。

本時は，生き物とロボットを，呼吸や成長を視点として比較した3・4段落の学習に続いて，題名につながる生命のつながりの視点を明らかにする5段落の学習が展開された。児童は，生き物の特徴である，過去や未来の生き物たちとのつながり，家系図や先祖と子孫の関係を矢印や線で示し，子孫を残せないロボットと比較して対話シートに積極的にまとめていた。導入では児童が課題意識をもつ発問を，展開時にはある児童の対話シートを取り上げ，新たな考えや思いを深める思考の材料として活用し，終末時には何がつながっているのかを明らかにし，児童の考えを整理するための発問を行っていた。効果的な発問や助言がなされていた。

- (2) 第2回研究授業では，校区内の仕事について調べたことをもとにリーフレットを作成するために，説明文教材「アップとルーズで伝える」で学習した表現の工夫を取り入れた実践が提案された。3つの視点「児童の気付きから学習問題を作るための教材提示」「自分の考えを明らかにする板書」「児童の考えを学習集団の中で高める助言」で支援や指導の工夫が見られた。まず，伝えたいことに合う写真を選び，下書きを書いた。その際教科書の書きぶりのよさや板書の「作文のコツ」を参考にしたり，取材メモを活用したりして意欲的に取り組んでいた。次に，ペアやグループでお互いの文を読み合っって評価した後，教材提示装置を用いて全体で文章と写真のつながりを確認した。クイズ形式で内容が一致する写真を見つける支援もあり，児童の関心が高まっていた。
- (3) 2回の研究授業を通して，学習指導要領をもとにした指導内容の焦点化，指導内容に沿った精選された発問，広がりや深まりのある助言等，指導のねらいの見極めの重要性についてご指導をいただいた。また，子ども同士が学びを共有する意義についてさらに研究を深められるようご示唆をいただいた。

## 三豊・観音寺市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 「確かな学力の育成」  
自分の考えをもち、伝え合い、学び合おうとする子どもの育成
- 2 研究活動の概要
  - (1) 4月30日(水) 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画の立案  
(豊中町農村環境改善センター)
  - (2) 5月29日(木) 三観小研国語部研修会研究授業（三豊市立桑山小学校）  
<2年> できるようになったよ
  - (3) 7月25日(金) 三観小研国語部夏季研修会（三豊市立詫間小学校）
    - 教材研究 1年 じゅんじょよくかこう  
5年 活動したことを伝える文章を書こう
    - 講演・演習「教師のための音読指導レッスン」
  - (4) 10月29日(水) 三観小研国語部研究発表会研究授業（三豊市立桑山小学校）
    - <1年> ようちえんのせんせいに つたえよう パート2  
ーしたことを じゅんじょよく かいてー
    - <5年> 五色台宿泊学習をリーフレットにまとめて活動の報告をしよう  
ー活動したことを伝える文章を書こうー
- 3 研究内容
  - (1) 研究の視点
    - ① 表現する機会を増やし，伝え合う力を身につけるために
      - ア 「言語活動」の充実……単元を貫く言語活動
      - イ 学習活動の工夫ー教材・教具の工夫
      - ウ 国語の教科書の良さを生かす指導
      - エ ノート指導の工夫
      - オ 評価の工夫
      - カ 45分間の学習の流れの一つのパターン化
    - ② 楽しく「書く」「話す・聞く」力を身につけるために
      - ア 表現ドリル……表現力，対話力，語彙・読解力を育てるための取り組み，視写等
      - イ 言語環境作り
      - ウ 表現タイム
      - エ 朝の会や帰りの会の活用
  - (2) 授業実践の成果
    - ① 1年の実践より
      - ・ 本単元では、「順序に気をつけて書く」が「付けたい力」，「経験したことを思い出して文章を書く」が「言語活動」である。そのために，何の経験を取りあげることが大切になる。その点，「やきいも」は，したことを思い出しやすい，したことの順序が三つある，におい・音等刺激するものがある，友だちとの交流ができる，同一経験であるといった点で有効であり，児童は，教科書より詳しい文を書くことができていた。
      - ・ モデルの提示も，教科書では大まかな構成と学習のねらいが示されているが，教師モデルはねらいに向かって焦点化し，個人差にも対応していた。また，児童のモデルも，書く意欲を高めるのに役立っていた。
    - ③ 5年の実践より
      - ・ コミュニケーションが苦手な児童が多いが，本時は自分の考えをもち，伝え合おうとする児童の姿が見え，学習の仕方を学べる授業であった。「単元を貫く言語活動」を体験とつなぎ，相手意識をもったリーフレット作りにしたことがよかった。
      - ・ 自分の考えを明確にするためにキャッチフレーズを最初の段階で作ったが，リーフレット作りを進めながら変化していくのもよい。また，全校生へのアンケートの結果を比較して，児童は学年の実態の違いに気付いていた。「五色台」という言葉を変えていくとどうなるか考えさせ，体験の言葉を加えていくとよい。
      - ・ 板書の工夫やノート計画もあり，大切なことができていた点もよかった。